生駒市須恵器窯出土の土器

平城宮跡発掘調査部

生駒市内に土器の散布地があるとの通報と案内を受け，現地調査をおこなった。遺跡は生駒山塊東斜面の小支谷の水田で，同市俵口町北庄にあたる（『奈良県遺跡地図』I-4-A-1）。調査前日までの雨で土砂が崩れ，灰とともに大量の須恵器の破片が散乱していた。他に窯体の破片も採集したが，露出した部分は灰原のみで，窯の位置は確認できなかった。

採集した須恵器には杯・皿・杯蓋・壺・鉢がある。壺・鉢類は非常に少なく，杯・皿類が大部分である。これらの土器は総じて平城宮跡第5次調査の土壙SK219出土土器と同じ様相をもったものである。

杯A（3・4）口縁部の直に開くものと，直に開くが端部が内弯し内側の突出するものとがある。底部は広い平底で外面はへら切りのままか，さらになでて調整したものである。

杯B（2）口縁部の直に開くもので，高台は外側へそらずに概して低い。

皿A（5・6）平坦な底部にわずかに外反する短い口縁部のつくものである。口縁端部は面をなし外傾する。

杯B蓋（1）頂部が平坦で器高の低いものが大部分であるが，頂部が丸く器高の高いものもある。縁部は二重に屈曲する。頂部外面はへら切りののちになでて仕上げる。

壺B（7）肩部が稜をなす体部に外反する短い口縁部と高台の付くものである。

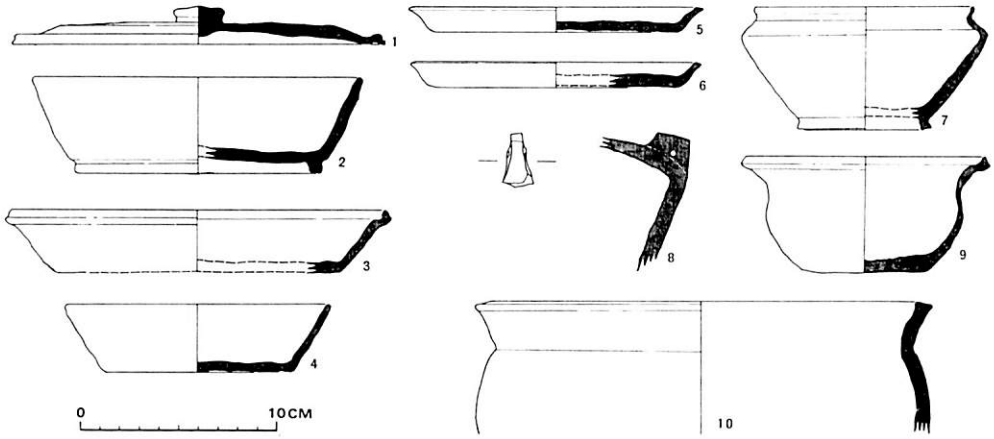
耳壺（8）稜をなす肩部に耳の付くものである。耳はへらで整形した扁平なもので，径2㎜の円孔を1つあける。

鉢（9）平底の丸い体部に外反する口縁部のつくもので，端部内側が上方に突出する。

鉢D（10）丸い体部に外反する短い口縁部をもち，縁端部は面をなし，端面は外傾する。

以上の須恵器は，全体に青灰色を呈しよく焼きしまっているが，灰色を呈し軟質のものもある。胎土は細砂を含み，なかに黒色微粒子を含むものがある。見た目には，大阪府泉北窯跡群の同時代のものとの区別は難しい。

（吉田恵二）



第1図　生駒市須恵器窯出土の土器